

地球市民として、IT企業として、環境貢献活動に積極的に取り組んでいます。

地域に密着した環境貢献活動を展開

Web検索 21-1

地球環境保護は、地球規模で考え、地域から活動を展開することが重要です。地域に密着した貢献活動として、「環境クリーン作戦」や「ドコモの森」による継続的な森林整備

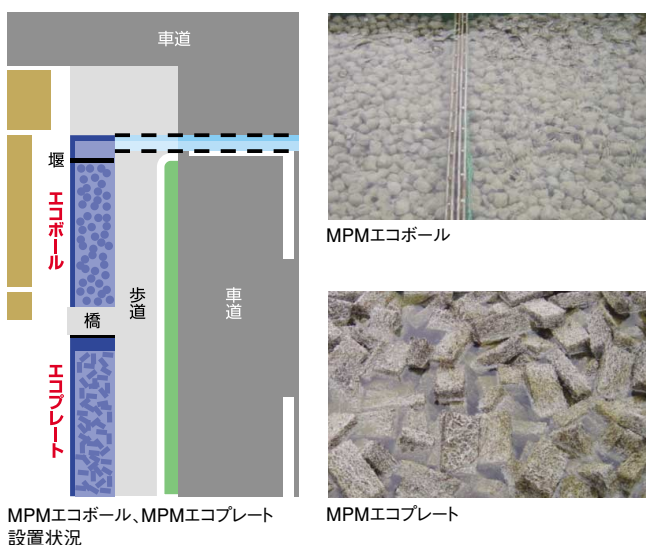
活動を行っています。さらに2003年度は、古紙再生時に発生するスラッジ(かす)を利用した環境浄化や、ITを活用した不法投棄監視システムによる環境貢献活動を行いました。

加古川市養田川の「水辺のまちづくり」事業に協力

Web検索 21-2

NTTアクセスサービスシステム研究所では、古紙再生時に発生するスラッジ(かす)の焼却灰を使用した新素材「マイクロ・ポーラス・マテリアル(MPM)」を、水質浄化や有害ガスの浄化に役立てる研究を進めています。同研究所とNTT西日本兵庫支店は、MPMを使って加古川市養田川の「水辺のまちづくり」事業に協力し、ホテルが飛び交う川づくりに貢献することができました。

MPMは高い陽イオン交換性を持っており、吸着性に優れています。河川に、MPMをボールやプレート状にして敷き詰めることにより、河川の有機汚濁指標である生物化学的酸素要求量(BOD)で80%の改善効果、窒素やリンでは40%の除去効果が確認できました。水質浄化に使ったMPMは、窒素やリンなどの肥料成分を含んでいます。MPMの成分はもともと土であるため、栄養分をプラスして再び土に還すことで、資源リサイクルが完結することになります。



MPMエコボール、MPMエコプレート設置状況

MPMエコボール

MPMエコプレート

カメラ付き携帯電話とGPSで富士を守る

Web検索 21-3

富士山は、現在も自動車や家具、廃材、タイヤなどの産業廃棄物が不法に持ち込まれています。ドコモ・システムズは、富士山をごみから守るNPO「富士山クラブ」に協力し、カメラ付き携帯電話と人工衛星を使った全地球測位システム(GPS)機能を利用し、不法投棄現場の写真と位置情報を把握するシステムを開発しました。富士山クラブは、送信された情報にもとづいて行政に通報を行うほか、蓄積した情報をもとに「富士山環境ごみマップ」を作成し、ホームページで公開しています。



カメラ付き携帯電話で廃棄物を撮影し、GPSで位置情報をネット上に登録

ドコモの森で地域社会と一体になった森林保全を推進

Web検索 22-1

NTTドコモグループでは、自然環境保護活動の一環として、1999年より、森林整備活動「ドコモの森」を継続的に展開してきました。「ドコモの森」は、林野庁と共同で管理している国有林です。この活動は、植樹や間伐、散策道の整備といった林業体験を通じ、豊かな生態系と美しい景観を保全するとともに、NTTドコモ社員やその家族が、地域の方々との交流を深めていくことを目的としています。

2004年3月現在、ドコモの森は22カ所にあり、今までに延べ約4,400人の社員やその家族が活動に参加しています。

2004年度は、九州でドコモの森をつくる予定です。これによりドコモ全グループエリアで整備されることになります。

さらに今後は、各都道府県に1つずつの「ドコモの森」を目標に展開していきたいと考えています。



2003年10月、ドコモ大和松倉の森(宮城県黒川郡大和町)で植樹・間伐・遊歩道整備・ベンチづくりに参加した社員たち

環境コミュニケーションを積極的に展開

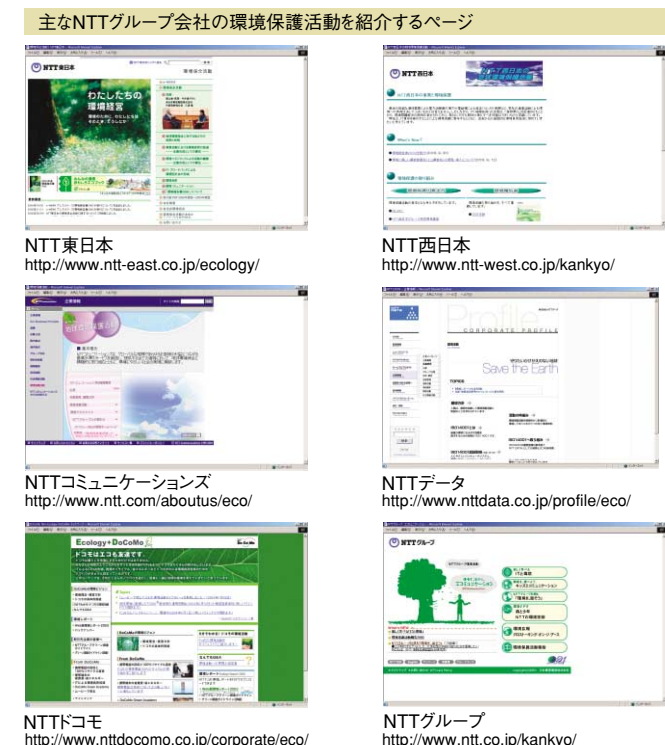
Web検索 22-2

NTTグループは、Webサイトと冊子(報告書)で、環境保護活動に関する情報公開を継続的に行っています。またNTTグループの環境保護活動とその考え方について、多くの方々にご覧いただくために、新聞・雑誌広告や環境イベントなどで、社内外との環境コミュニケーションを積極的に進めています。

2003年度の新聞・雑誌広告では、「ITは、夢も地球も、元気にします。」というキャッチフレーズで、ITサービスの環境負荷低減効果を紹介し、ITが地球のためにできることを訴求しました。

NTT東日本、NTT西日本をはじめとするNTTグループ各

社でも、Webサイトや報告書による情報公開、環境コミュニケーションを推進しています。



「ITは、夢も地球も、元気にします。」のキャッチフレーズで展開した新聞広告